AUE News

2011年4月1日

第 13 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500

目　次

● 行事予定(4 月 1-15 日)
● トピックス
・学内全面禁煙の看板設置
・音楽選修・専攻,音楽教育　卒業・修了演奏会
・「学生能への招待」展
・薬品類管理支援システム講習会
・市民参画型教員養成コーディネータ会議
・理科離れ実相シンポジウム
・卒業・修了式
・大学院修了証書授与式
・福島大学へ救援物資
・退職役職員永年勤続者表彰式
●愛教人インタビュー
・日本童画大賞優秀賞の松本昭彦教授とユリさん
● お知らせ・報告・投稿
・本学の中国研修一行、東北師範大学を訪問
・東海地区聴覚障害学生高等教育支援連絡会
・社会福祉士国家試験に全員合格
・東日本大震災復興支援金の報告

行事予定(4 月 1-15 日)

4 日(月)　入学式（10:30～　講堂）
5 日(火)　役員部局長会議（13:00～　学長室）
6 日(水)　教務企画委員会（13:30～　第二会議室）
　　学生支援委員会（13:30～　第五会議室）
　　大学改革推進委員会（15:30～　第三会議室）
11 日(月)　事務運営協議会（10:00～　第三会議室）
12 日(火)　役員会（13:00～　学長室）
13 日(水)　代議員会（13:30～　第五会議室）
　　教育研究評議会（代議員会終了後　第五会議室）

トピックス

学内全面禁煙の看板設置(3/16)

2011 年度からスタートするキャンパス内全面禁煙をアピールする看板が、3 月 16 日（水）に、正門周辺の 3 か所に新設された。

本学では、これまで受動喫煙防止の観点から、建物内を全面禁煙として、建物外には 11 か所の喫煙指定場所を設置。昨年度は禁煙ポスターの掲示や禁煙支援キャンペーンを実施するなど全面禁煙に向けて、さまざまな啓発活動を展開した。併せて、4 月 1 日までに 11 カ所の灰皿も全て撤去した。

今回の看板は、外来者に向けて敷地内禁煙を知らせるもの。車両登録に立ち寄る正門外と守衛所、ロータリーの 3 カ所に施設課の職員が設置した。

音楽選修・専攻，音楽教育　卒業・修了演奏会（3/17）

音楽選修・専攻，音楽教育の卒業・修了演奏会が 3 月 17 日（木）午後 4 時 30 分から，名古屋市中区の名古屋電気文化会館コンサートホールで開催された。

演奏会の前半は大学院修了生 5 人が，それぞれソプラノやピアノを，次いで学部卒業生がソプラノ，ピアノ，コントラバス，作曲，フルート，ホルンと，多彩な演奏を披露した。卒業・修了生たちは，これまで大学・大学院で学んだ成果を晴れの舞台で発揮し，満席の聴衆からは惜しみない拍手が送られた。

また，演奏会終了後の午後 8 時 30 分からは，3 月 11 日（金）に発生した東日本大震災を受けて急遽，開催を決めた音楽教育講座教員によるチャリティーコンサートが約 1 時間にわたって行われた。

教員を代表して武本京子教授が「被災者の皆さんにからお見舞い申し上げます。私たち音楽家が被害を受けられた方に何ができるかというと、やはり音楽によって愛と勇気を与えることではないかと。心を込めて演奏したいと思います」とあいさつ。5 組に分かれて、13 曲を披露し、最後は 7 人の教員がステージに上がり、観客と共に「ふるさと」を熱唱した。ロビーに設置した募金箱には、多くの人が義援金を寄せていた。集まった募金は被災地の復興支援金として役立てられる。

「学生能への招待」展（3/17-4/22）

本学の能楽部が主催する「学生能への招待」展が 3 月 17 日（木）、附属図書館のアイ❤スペースで始まった。4 月 22 日（金）まで。入場無料。

同展は、学生能の活動活発化を目的に同部が企画。日本の伝統芸能の能楽に興味をもってもらい、学生能の活動を知ってもらうことで、より多くの人に活動に参加・協力してもらいたいとの思いから実施した。

会場では舞台写真をはじめ、名古屋学生能楽連盟が所蔵する能面、附属図書館所蔵の書物の展示、学生による能の映像の上映が行われている。能と狂言の違い、能の形式や「型」、名古屋学生能楽連盟の活動などについて、写真と解説文で初心者にも分かりやすく紹介。附属図書館の書物で普段，非公開の「勧進帳能絵巻」からは「翁（おきな）」の演能場面が展示され，演目の中の翁面と現在使われている翁面を併せて見せることで，面の使われ方を具体的に紹介している。能面は期間初めは「女」の面を，若い女性から，年代順に３点を展示して，細やかな造形の違いなどを見て取ることができる。4 月には「男」の面，神や妖怪など人間以外の面などのシリーズで，連盟所有の 20 面を順次公開していく。

また，4 月 12 日（火）13 日（水）の両日，午後零時 40 分～1 時には学生による実演も。演目は，仕舞「高砂」，素謡「鶴亀」ほかが予定されている。

能楽部代表の岩田大輔さん（初等・美術選修 3 年）は，

「能を知らない人たちの疑問に答えるような展示にしました。ほう，なるほど，と分かってもらえるとやった甲斐があります。実演や，能面の展示替えなどがありますから，何度でも足を運んでください」と，袴姿でアピールした。

薬物類管理支援システム講習会(3/17)

第1回薬品類管理支援システムTULIPの全学講習会が3月17日（木）に開催され、約40人の薬品類を取り扱う教職員、学生が受講しました。TULIPとは、富山大学が開発した薬品管理支援システム（Toyama University Lab. Chemicals InPut system）で、今年度安全衛生委員会より指名された薬品類管理システム推進プロジェクトチーム（YSPT）によって、本学での運用実現に向けて準備が進められてきました。

まず、菅沼教生保健環境センター長から、「今回のTULIP導入は決して唐突に決まったものではなく、水質汚濁防止検討委員会を中心に本学の薬品類管理について10年以上検討された結果である」という紹介がありました。引き続き、YSPTリーダーの榊原洋子保健環境センター講師から、TULIP導入決定までの経緯と社会的背景について、2001～02年学長裁量経費研究プロジェクトでは「大学における化学物質の管理目的は、取扱者や周辺者の健康安全と環境保全」が確認され、「本学の化学物質管理は形式（システム管理）よりも内容（教育）を重視する」方針を推進してきたことをはじめ、2009年度薬品類の管理のあり方WGで検討においては、さらに「組織的管理」、「安心安全の社会形成のためのリスクコミュニケーション」が社会から求められているという説明がありました。そして、数年のTULIPの使用実績がある日野和之理科教育講座講師及び院生の伊田智洋さんがパワーポイントを使って、TULIPへのアクセス、薬品受払時の使い方、利用上のメリット等について、とてもわかりやすい説明がありました。

TULIPは薬品管理のための「道具」ということで、YSPTは2011年度もユーザーのニーズに合った使いやすいものにすることを目標にしているそうです。

（保健環境センター講師　榊原洋子）

市民参画型教員養成コーディネータ会議(3/18)

市民参画型教員養成コーディネータ会議が3月18日（金），第五会議室で開催された。教員養成の在り方として新たな授業の体験を具体化していくため学外者の協力を求める会議で本年度第一回。会議には愛知県教育委員会，名古屋市教育委員会はじめ豊田自動織機，中日新聞，中部電力など協力企業関係者と本学教員ら計25人が出席。

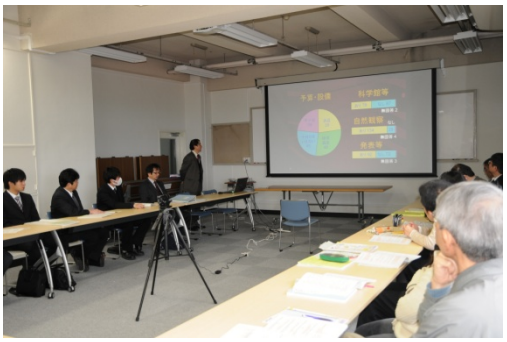
役員の自己紹介の後、松田正久学長が「お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。コミュニケーション力といわれますが，営業力なら商品への理解力，宣伝力が必要であり，教員を目指す学生には子どもとのコミュニケーション力を身につけてもらう必要があります。そのために皆さんのご協力をよろしくお願いいたします」とあいさつ。続いて座長に土屋武志教授（社会科教育）を選出し，同教授が議長を務めた。新委員2人が承認された後，企業などの協力で実現した総合演習の報告に移り，教員，学生がエネルギー教育，豊田自動織機を通したものづくり，外国人児童と日本人が一緒に楽しく学習できるビデオ作成，ＮＩＥ（教育に新聞を）を推進できる教員の養成を目指した授業などを紹介した。

この後，委員が本プロジェクトの在り方について議論。「学生は書くことはできても，しゃべることが苦手」「外へ出て学ぶことが大切だが，学生に時間がない。グループなら全員が参加すべきだが共通の時間がない」「コミュニケーション能力を持った学生に

なってもらいたい。心と心が繋がる教員になってもらいたい」などの課題が出された一方，「国際交流では学生から斬新で面白い企画が出て，交流の活性化が進んだ。住民から信頼されている」「学生は毎年変わるが，それが引き継がれて改善が進んできている」など評価する意見もあり，活発な意見交換が行われた。

理科離れ実相シンポジウム(3/20)

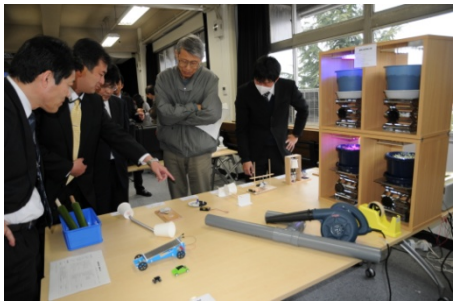
理科離れについて、学校現場の本音をきこうという「理科離れ実相調査・ミニシンポジウム」が 3 月 20 日（日）、自然科学棟 501 教室で開催された。



このシンポジウムは、平成 22 年度科学研究費・挑戦的萌芽研究「科学教育出前授業等の学生の主体的実践と連動させた理科離れの実証的研究」の一環として実施されたもので、「小学校教科『理科』の充実と理科実験の改善に向けて　パート 2」と題して行われた。今年 1 月中旬～2 月中旬には愛知県内で、「小学校　理科実験に関するアンケート」調査がされ、愛知県内で抽出した 300 校の小学校のうち 167 校からの回答を得ており、シンポジウムはその結果を基に展開された。この日は、本学の教員や学生、小中学校の理科担当教員など計 25 人が参加した。

冒頭、岩崎公弥理事（教育担当）が「理科離れは子どもの生活全般と関係している。いろいろな改善の試みを教育に生かしていただければ」などとあいさつ。その後、理科の授業や実験についての問題点やその改善策などについて発表が行われた。

同研究の代表で理科教育講座の澤武文教授はアンケート調査の集計を報告し、実験・観察時の障害、理科備品の管理不足、実験指導の苦手な教員など、学校現場の現状を伝えた。また、名古屋市立西味鋺小学校の槇野泰夫校長は理科における教員への支援について報告。子どもの理科離れでなく、教員が理科から離れている現状から、名古屋市では理科実験のための教員用資料を制作し活用していることなどを紹介。ほかに、訪問科学実験や小中学校に理科実験セットの貸し出しを行う「教材倉庫」の取り組みについての発表、出席者による意見交換・交流も活発に行われた。



卒業・修了式(3/24)

2010 年度の卒業・修了式が 3 月 24 日（木）午前 10 時から講堂で行われた。

卒業・修了したのは、教育学部 887 人、大学院教育学研究科 124 人、教育実践研究科 27 人、特別支援教育特別専攻科 29 人の計 1067 人。また、学部・大学院で学んだ留学生 13 人も卒業・修了した。

式ではまず、11 日に発生した東日本大震災の犠牲者を悼んで出席者全員で黙とうを捧げた。続いて、学位記と修了証書の授与が行われ、各課程の卒業生代表が壇上で松田正久学長から証書を受け取った。

松田学長は告辞の冒頭で「大震災の結果、東日本の多くの大学では修了式が中止され、皆さんはこうした修了式にも出席できない多くの仲間を代表して、ここに出席したと思ってください。すべての皆さんに心よりお祝いのメッセージを贈ります」と卒業生を祝福した。国立大学運営交

付金の確保や、JAXA 小惑星探査機「はやぶさ」の生還、中東地域の長期独裁政権崩壊など最近の国内外の情勢にも触れながら、「社会に巣立っていくみなさんには様々な問題を抱える世界の現実から目をそらすことなく、『知の力』で世界を見据えてほしいと思います。愛知教育大学での学びを日々の誇りとし、更に視野を広げていただくよう、大きな期待を寄せております」などと、今後の活躍を祈念して告辞を結んだ。

これを受けて、卒業生・修了生の代表による答辞が行われ、養護教諭養成課程の服部愛さんは「この愛知教育大学で培った知識や経験を十分に発揮し、広く社会へ貢献していこうという決意です」と社会に巣立つ決意を力強く述べた。

この後、来賓の紹介、管弦楽団の演奏、「蛍の光」斉唱が行われ、式は終了した。

講堂前では、卒業生・修了生たちをクラブやサークルの後輩たちが待ち受けて、胴上げをしたり、記念撮影をするなどして、先輩たちの門出を祝った。

大学院修了証書授与式(3/25)

平成 22 年度大学院修了証書授与式が 3 月 24 日（木）午後 6 時 30 分から第五会議室で行われた。

この日の授与式には、大学院の昼夜開講コース・教職大学院を修了し、23 日（水）の修了式に出席できなかった現職の教員 24 人が参列。一人ひとりの名前が呼ばれ、松田正久学長から学位記が手渡された。

学長告辞で松田学長は冒頭、3 月 11 日（金）に発生した東日本大震災について「希望半ばで犠牲となられた方々に、この修了式にご出席の皆さまとともに、心からの哀悼の意を捧げます」と述べた。そして、大学院での学びに対して「小学校や中学校にお勤めになりながら、本学大学院でそれぞれの学問分野や教育実践にかかわる研究をされ、晴れて修士号や専門職修士の学位を取得された皆さん。そのご努力に対し、衷心より敬意を表します」と労をねぎらい、「日々、教員としての実践の中で、奮闘されている皆さまには、やはり大学院で学んだ教員は、すごいなと、スクールリーダー的教員としてご活躍いただけるよう、大きな期待を寄せております」などと激励の言葉を贈った。

修了生の答辞として、発達教育科学専攻の稲生直子さんは「生徒たちが目の前にいる環境であったからこそ、自分の実践と生徒の成長が重なる喜びを感じ、仕事と両立しての研究活動ができたと思っております」、教育実践研究科の芳賀俊行さんは「教職大学院で学んだことの意義をかみしめ、それぞれ与えられた立場において、託された使命を精いっぱい果たしていきたい」などと、新たな決意を語った。

福島大学へ救援物資(3/24)

本学は 3 月 24 日（木），東日本大震災被災地の福島大学に支援物資を届けた。国立大学協会の調整によるもので，同大学に希望する品物を聞いた上で食品，おかずを中心にカップきしめん 480 食，漬け物 185 個，缶詰 77 個，非常用水タンク 20 個などを 4ｔトラックで輸送した。本学が輸送を依頼したのが本学の近くにある刈谷市東境町上野の愛東運輸株式会社（村山明子社長）。同社は本学の支援物資調達に呼応し，急遽，物資を独自に用意。無洗米 280 ㌔㌘，水 2 ㍑入りボトル 60 本，灯油 80 ㍑，マスク 160 枚などを同じトラックに積み込んで，無事福島大学に届けた。

同社はこれまで様々な社会貢献活動をしてきており，大災害の被災者支援を本学とともに行うことになった。本学はこうした善意，協力に感謝し，3 月 28 日（月）に同社に感謝状を贈った。

贈呈は学長室で行われ，村山社長は浜島崟欣常務を伴って来学。松田正久学長が村山社長に感謝状と記念品を手渡した。学長が「ご協力に感謝します。被災 1 週間後に宮城教育大学に救援物資を送ったが，当時は運輸会社に引き受けてもらえなかった経緯もある。今回は輸送を引き受け，物資でもご協力いただいた」と話すと，村山社長は「私たちなりの貢献がしたいと考えていたときで，少しでも大学の役に立てたとすればうれしい」と答えていた。

退職役職員永年勤続表彰式（3/25）

2010 年度の退職役職員永年勤続者表彰式が 3 月 25 日（金）午前 11 時 30 分から第五会議室で行われた。

今年度の対象者は、村松常司理事（学生担当）、横地正喜理事（連携担当）、佐藤洋一特別教授（理科教育）、田中守助教（障害児教育）、志賀廣夫准教授（教職実践）、安武知子教授（日本語教育）、冨岡逸郎事務局長、石井利通財務部長、小川秀夫教授（情報教育）、西村敬子教授（家政教育）、山本強利総務第四係長の計 11 人の皆さん。

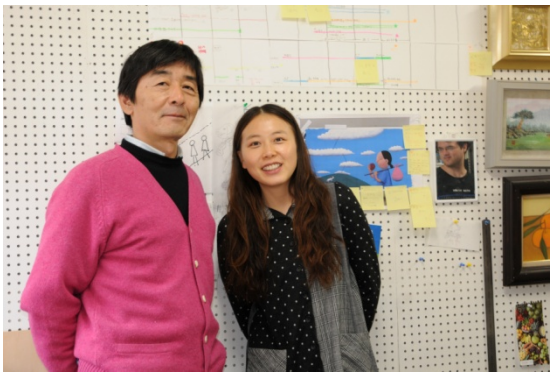
表彰式にはこのうち 8 人が出席し、一人ひとりに松田正久学長から感謝状と記念品が手渡された。松田学長は「井ヶ谷のキャンパスが真新しい時にみえて、本学の発展に長年携わっていらっしゃった方々で、今日の大学の基礎を築いてきた先生方。大変お世話になりました。これからもいろいろとお知恵をお借りしたい。お辞めになっても励ましのエールをお願いしたい」と長年の功績に感謝の言葉と贈ると同時に、今後の支援を呼び掛けた。

被表彰者を代表して、村松理事と佐藤特別教授が謝辞を述べ、「教育は厳しい環境にありますが、愛知教育大学のさらなる発展をお祈りしています」などと、お礼の言葉を返した。

引き続き、記念撮影、昼食会が行われ、本学での思い出などを和やに語り合った。

愛教人インタビュー

日本童画大賞優秀賞を受賞の松本昭彦教授とユリさん



優れた絵本作品に贈られる「第 6 回武井武雄記念・日本童画大賞」優秀賞を松本昭彦教授（美術教育）と留学生のキム・ユリさん（韓国）がこのほど受賞した。

2 人は「安みち」のコンビ名で共同制作した絵本「ゆめたびびとリリ」で昨年 12 月に同賞に応募。全国から応募の 97 作品の中から、大賞、最優秀賞に次ぐ優秀賞に選ばれた。

同賞は絵本作家の武井武雄を記念して創設され、2 年に一度開かれる童画のコンテスト。全 5 回はイラストやメルヘン画を対象にしていたが、今回初めて絵本を対象にして実施。　2 月に長野県岡谷市のイルフ美術館で授賞式が行われ、美術館のコレクションに収蔵されることになった。絵本は主人公の女の子リリが夢の中で、不思議な旅をする物語。雲に乗って仙人に会ったり、夢か

ら目覚めるとそこが水上マーケットだったり…と、奇想天外なストーリーが展開する。そんなキャラクターや舞台設定、物語の展開などが審査員に高く評価された。絵本作家“安みち”の２人にインタビュー。

２人で絵本を制作するきっかけは―

松本教授：これまで、見たものを表現するための「キミ子方式」で学生に描かせてきた。ある程度描けると、自分の世界をつくりたくなるんです。その授業研究をする中で、留学生のユリさんと一緒につくったのがこの本でした。

その本で受賞した感想は―

ユリさん：初めての絵本で、賞がもらえるとは思っていませんでしたが、勉強のためにと応募。受賞者同士のワークショップに参加できたのもとってもいい勉強になりました。

受賞は、描くことが得意な松本教授、物語を考えることが好きだったユリさんの互いの長所が上手く生かされた結果だったそうですね―

松本教授：絵本は 20 数年ぶり。話がなかなかできなくてやっていませんでしたが、今回はお話作りが得意な人がそばにいてくれたからできました。彼女はフォトショップやイラストレーターも使いこなせるし、韓国で小学校の先生を３年半した経験から工作も得意でいろんなアイデアを出してくれました。

ユリさん：今まで自分の中にあったものが全部役に立った。絵は日本に来る前も描いていたけど、何を描いたらいいか分からなかった。絵本の絵を描くこともあると分かって、これかも絵本作りをしていきたいと思っています

松本教授：一人では見えない正しい指摘もありました。自分が描けない時は、相手のアイデアを生かしたり、面白くない時は、面白くないと言われたことも（笑）。

コンビで制作する絵本の第２弾は―

松本教授：今年中には合計４作を制作予定。ちなみに第２弾の主人公はギターを弾くブタが主人公です。

ユリさん：“安みち”コンビもそれにちなんで、ギターを特訓中。楽しみながら、絵本制作を続けていきます。　　（インタビュー：法人運営課広報担当　小林則子）

お知らせ・報告・投稿

東海地区聴覚障害学生高等教育支援連絡会(報告)

２月 26 日（土）13 時～17 時、本学・障害児教育棟にて、「第２回東海地区聴覚障害学生高等教育支援連絡会」（以下；「連絡会」と省略－事務局；障害児教育講座・岩田吉生研究室）が開催されました。連絡会は、東海地区の高等教育機関で聴覚障害学生支援に係わる人々が一同集い、研修・情報交換・交流を目的とした組織で、昨年 21 年度に設立されました。聴覚障害学生支援の拠点大学である筑波技術大学に事務局を置く「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）」の協力を得ながら、この組織の連携機関である本学を会場として開催されました。

連絡会当日は、大学の聴覚障害学生・支援学生・教職員、聾学校の生徒と教員ら 44 名が集いました。前半は、愛知教育大学・名古屋大学・日本福祉大学・同朋大学・愛知淑徳大学と PEPNet-Japan のブースを設けて、パネルの展示と活動紹介が行われました。後半は、分科会「聴覚障害学生支援について語ろう！　そして、手をつなごう！」を開催し、①聴覚障害学生、②支援学生、③教職員の立場に分かれ意見交換を行いました。

参加者一同、これまでの活動を振り返り、新年度に向けて取り組むべき課題を整理し、皆で共有を図ることができました。

本学においても、現在、聴覚障害学生が 2 名在籍し、支援団体「てくてく」（登録学生 52 名）が活動しています。情報保障のサポートを受けながら、過去 10 年間に 8 名の聴覚障害学生が卒業し、6 名が教員採用試験に合格して聾学校の教員となっています。本学の聴覚障害学生と支援学生が協力しながら、支援活動がさらに充実していくことを強く希望します。

（文責・障害児教育講座・准教授・岩田吉生）

本学の中国研修一行、東北師範大学を訪問（報告）

3 月 21 日（月）に、本学の中国研修一行 15 人は、本学の協定校である東北師範大学を訪問しました。一行は午後 13 時 30 分頃、まず小会議室に行き、張紹傑副学長を表敬訪問しました。張副学長は私たちの訪問を歓迎するあいさつをされ、東北師範大学の留学生受け入れ等のことについて紹介されました。本学の松田正久学長からの「史寧中学長へよろしく」とのメッセージを伝えると、同副学長は出張中の「史寧中学長から、松田学長をはじめ愛知教育大学の皆さんへよろしくとの伝言を頼まれました」と述べた。また、同副学長は東日本大震災について心からお見舞い申し上げますと述べ、会見終了後、副学長は一行と記念撮影をしました。

続いて、一行は大会議室に移り、東北師範大学で日本語・日本文化を学ぶ学生 24 人（二年生 22 人と日本人留学生 2 人）と、互いの学生生活、自分の目標及び興味を持つ話題等について交流を行いました。会場では相互理解・相互交流の重要性が改めて認識され、双方の文化への理解についても更なる努力が必要だと思うようになりました。交流は二時間にわたって行われ、終始、和やかな雰囲気でした。中には時間の経つのを忘れたという人も。

学生交流が行われる中、時は東北師範大学教授林忠鵬先生と、同大での日本語教育や日本文学、日本文化に関する教育・研究等について意見を交換しました。

学生交流の初めに、本学の東北師範大学留学中の高橋利幸君を紹介し、同君に同大での留学生活について話してもらいました。高橋君はすっかり地元の生活に慣れていて、中国語もペラペラで、日本人留学生、中国人学生の友達もたくさん作れました。その後、高橋君も学生交流に加わり、宿泊するホテルまで来てくれました。そのほか、交流の会場内で今年四月に交換留学生として本学留学予定の龍　時（Long Shi）さんとも会えました。龍さんは日本のことについていろいろ聞き、本学での留学生活を期待しています。

交流終了後、東北師範大学側は同大の福祉施設で一行を夕食に招待しました。両大学の前途を祝して乾杯しました。大変ご馳走になりました。

本学の中国研修一行は 3 月 1 日から上海、蘇州、揚州、徐州、曲阜訪問後、3 月 6 日から 17 日まで済南市にある山東大学に滞在し、同大国際教育学院で中国語、中国文化の研修を受けました。北京訪問後、3 月 19 日に長春入りしました。一行は 22 日に名古屋に帰りました。

一行は 3 月 25 日午後、学長室を訪問し、松田学長に帰国の報告をしました。参加者の一人ひとりが今回の中国研修についてそれぞれ自分の感想を述べました。松田学長は国際交流の重要性を強調された上で、本学と協定を結んでいる大学をなるべく利用して、研修や留学に行くようにと呼び掛けられています。

今回の中国研修は締結校との交流、中国社会の見学、文化施設の視察、中国語会話力の向上など、種々の収穫がありました。山東大学、東北師範大学及び本学の国際交流センターの協力を得ました。関係各位に感謝します。どうもありがとうございました。

（人文社会科学系・外国語教育講座　時衛国）

社会福祉士国家試験の本学受験生全員合格

第 23 回社会福祉士国家試験の合格者がこのほど発表され、本学の在学生・既卒者の受験生全員が合格したことが分かった。

同試験は 1 月 31 日（日）に実施され、本学からは 4 年生 9 人、既卒の 2 人の計 11 人が受験した。全国の福祉系大学等 209 大学の平均合格率は 28．1％という難関の国家資格で、全員が合格を果たしたのは、全国で本学が唯一だった。

東日本大震災復興支援金の報告

本学では東日本大震災の被災地への復興支援金を、全学を挙げて募っています。募金は 3 月 31 日現在で計 100 万 755 円となりました。内訳は教職員からの 53 万 6340 円、学生有志からの 46 万 4415 円。これらは、第一次分として日本赤十字社を通じて、現地の復興に役立てられます。

現在は第二次分の募金の受け付けを行っています。復興には莫大な資金の長い時間が必要です。今後も、皆さんからのご協力をお願いします。

また、現地を訪れて復興のためのボランティアのできる復興支援ボランティアを募集しています。3 月末現在の登録は、教職員、学生、合わせて 127 人です。行き先や期間、内容などは現在、検討を重ねているところです。詳細は、学生の方は学生支援課、教職員は総務課までお問い合わせください。

編集後記

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さん一人ひとりが夢を持って、愛知教育大学の門をくぐられたことでしょう。そんな大学での出来事、学生や教職員の活動を紹介するのがこの学内ニュース「AUE News」です。原則毎月 1 日と 15 日に発行しています。教職員向けのフォーラム、ホームページでご覧いただけるほか、この 4 月からはバックナンバーのファイルを附属図書館、学生サポートセンター、生協に設置します。どうぞ、ご活用ください。また、情報提供や寄稿も歓迎です。学生・教職員の皆さんの参加で、より充実した「AUE News」をお届していきたいと編集担当者一同、思っています。（K）

投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者：総務担当理事　折出　健二